

2020 年度

一般入学試験Ⅱ期

必須科目

試験時間 9：30～11：30（120分）

- | | |
|-------|--------|
| 1. 国語 | 14 ページ |
| 2. 英語 | 7 ページ |

注意事項

- ①試験開始の指示があるまで、問題冊子の中を見ないこと。
- ②問題冊子の印刷不鮮明やページの落丁・乱丁等があった場合は、手を高く挙げて監督者に知らせること。
- ③試験終了の指示があったら、直ちに解答をやめること。
- ④試験終了後、問題冊子は持ち帰ることができます。

健康科学大学
看護学部看護学科

1. 国語

※国語の問題は、全14ページです。

国語

1 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。なお、設問の都合で本文の段落に〔1〕～〔14〕の番号を付してある。

- 〔1〕 「コミュ障」という言葉は、グーグルトレンド（注1）によれば、二〇一〇年後半あたりから急激に二〇二二年にかけて（ア）ケンサク回数が上昇、二〇二四年四月にピークで、現在も高い人気を示しているネットスラング（注2）で、「ぼつち」や「非コミュ」等の類似の用語と共によく使われている。
- 〔2〕 2ちゃんねる（注3）との親和性の高さはグーグルトレンドの分析でも示唆されており、コミュ障という用語が、当事者間で「自称・自嘲」的に使われ、仲間内で共感的に使用されていることが例証されている。対照的に、彼らのようなコミュニケーションが苦手な連中（ニココミュ障）から見ても、よりコミュ力に欠け他者への配慮がないと彼らが感じる人々に対しては、彼らは「アスペ」「池沼（知的障害）」「糖質（統合失調症）」といった用語を使用して自分たちと区別しており、Aコミュ障用語の内輪性は、この点でも確認できる。
- 〔3〕 コミュ障は、全く人とコミュニケーションできない人たちではなく、この当事者性をもつたネットスラングの存在、すなわち自身を自嘲的に語って他者との共感を共有する視線や振る舞い（「傷のなめ合い」といわれる側面も）に見られるように、他者や他者とのかかわりを意識し、また同様の数々の2ちゃんねる用語（が今では一般でも使われるのは、コミュ障の問題意識はそれ以外の人々にも共有されつつあることや、彼らの表現が、使用が拡大されるに足るセンスや表現力を持っていることを指し示しているだろう）を生み出すのはもちろん、コミケ（注4）やアスキーアート（注5）、ニコニコ動画（注6）、ボーカロイド（注7）など、仲間同士の協同への（イ）コウケンや思いは強く、仲間の中ではコミュニケーションは活発である。
- 〔4〕 それゆえこの事態の解釈としては、次の二つのものが考えられる。
- 〔5〕 一つは「限定的コミュ障仮説」、すなわち、彼らが（趣味）同質性の高い限定的空間ではコミュニケーションができるけれども、異質性のある空間ではコミュニケーション弱者であるという解釈である（それゆえ「アスペ」と比べて、そもそものコミュニケーション能力は潜在的に存在し、「成長」の可能性がある。ただし当事者たちにとっては、次節の吉田に見られるように「コミュ障自体は治らないけれど会話技術（の習得）で乗り切れる」という自己認識もあり）。
- 〔6〕 もう一つは、「異文化コミュニケーションおよび差別仮説」、すなわち、オタク文化と一般の文化は異なり、一般の文化がオタクのアイデンティティと文化を排除しているがゆえにコミュニケーションが困難であるというものである。
- 〔7〕 私自身の見解としては、二つの説は相反すると単純に見るのではなく、コミュ障は両方の要素を持った構造としてあるのではないかと考える。
- 〔8〕 まず前者を象徴するものとして、コミュ障当事者（ゲストに「絡みにくい」と言われ落ち

こぼれアナウンサーだった) ニッポン放送アナウンサー、吉田尚記や彼の著書『コミュ障は治らなくても大丈夫』に見られるような一連の(ウ)ケイモウ活動、および『電車男』や『東京タラレバ娘』『海月姫』のようなオタクの「成長物語」があるだろう(週れば『エヴァンゲリオン』も)。

〔9〕 吉田はオタク仲間では全く気楽にコミュニケーションできるのに、それ以外の人々とは、話題を選ぶ困難から始まって、会うだけでもひどく緊張して固まってしまい、いわゆる「クローズド質問」(イエス、ノーで答える質問。そこで語りが停止するので会話が続かない)や「本質的」な質問で相手を話しくくさせて沈黙に至らせ、さらには話しくいだけでなく相手を傷つける発言までしてしまい、アナウンサーとしてゲストに嫌な思いをさせる失敗の連続であった。

〔10〕 それは、彼自身がコミュニケーションにおいてリラックスできず、場を支配し先読みしようとして、コミュニケーションの本質的構造としてある他者や時間に関われる要素を逆に排除してしまっていたからである。そしてさらには、**B**その事態がもたらす困難についてのメタレベルの認知がますます彼を緊張状態に追いやっていたからであった。

〔11〕 いわゆる「コミュ障あるある」ネタには、「頭で何喋るかシミュレートしてるのに噛む」「一日の中で数回しか会話が成立しないから、話したことを一言一句思い出せる。そして、『こう言えばよかった』と脳内反省会して『うわあああああ』ってなる」等、これらの困難が示されており、すでにコミュ障たちに自分たちの陥っている事態は客観的に認識されている(それを可能にしたのは「あるある」にみる問題の共有と共感のコミュニケーションの場である)にもかかわらず、抜け出せない闇としてその構造はある(そしてそれは、それを意識すればするほど抜けられなくなる闇である)。

〔12〕 森田療法(注8)が、文化結合症候群とされてきた日本人の「対人恐怖症」を、このメタ認知の(エ)カシヨウ意識によるものとし、自然に身を任せ自然に振る舞うことを治療法としたように、吉田も、コミュニケーションにおける自然さ、先を考え込まない、ちよつとした身近な話題や自身の感情に乗る等々の具体的なアドバイスを行う(ex.「深い質問より(オ)ササイな質問」、「質問は具体的に」等々)。

〔13〕 吉田は「コミュ障は治らないけど、コミュニケーションのルールを覚えれば、誰でも会話上手になれる」と技術論に落とし込むが、自然なコミュニケーションの流れは、彼の中には全くないものではなく「思い出された」ものであり(一般人のコミュニケーションへの気構えと思い込みによつて抑圧していた、自分の趣味空間での自然な振る舞いを発露することで、彼は「闇」を突破したのであった。そして、それにさらに趣味以外の話題についての話し方について、通常なら経験の中で自然に獲得されていくものを再帰的にテクニクとして習得していった)、発達障害者ほどには無理して(苦痛なまま?)「適応」しているものでもなく、それは『電車男』や『東京タラレバ娘』のような、**C**他者に関われる喜びを見出す「成長物語」でもある。

〔14〕 これに対し、アンチ『電車男』(2004)宣言において『電波男』(2005)を著した本田透に見られるように、『電車男』を、むしろオタク空間やアイデンティティを解体してしまう物

語として、さらに「適応先」そのものにある抑圧や問題が検討されていないとして批判の対象とし、「恋愛消費主義」批判等を展開する立場がある。

(梶村愛子「コミュニケーション社会における、『コミュ障』文化という居場所」より抜粋)

注

- (注1) グーグルトレンド — グーグル (Google) 社が提供するサービスで、インターネット上である単語がどれだけ興味を持たれているのかを調べることができる。
- (注2) ネットスラング — 主にインターネット上で使用される俗語、隠語のこと。
- (注3) 2ちゃんねる — インターネット上で様々な情報を書き込める掲示板サービスを提供するサイト。
- (注4) コミケ — コミックマーケットの略称。同人誌などの販売が行われる。
- (注5) アスキーアート — 文字や記号を組み合わせ、表情やイラストにしたもの。
- (注6) ニコニコ動画 — インターネット上で動画配信サービスを提供するサイト。
- (注7) ボーカロイド — 人の歌声を作成することができるパソコンのソフトウェア、あるいはそのソフトウェアで設定されているキャラクターのこと。
- (注8) 森田療法 — 精神科医の森田正馬が創始した心理療法。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

(ア) ケンサク

- ① 巻末のサクインを調べる
- ② 舞台裏でカクサクする
- ③ 労働の成果をサクシユする
- ④ 考えがサクランする
- ⑤ レポートをテンサクする

(イ) コウケン

- ① 都会のケンソウを避ける
- ② ケンメイな判断をする
- ③ 日々ケンサンを積む
- ④ ケンシ的に支援する
- ⑤ ケンキヨな態度で接する

(ウ) ケイモウ

- ① 衛星チユウケイ
- ② 一筆ケイジヨウ
- ③ ケイセツの功
- ④ 心象フウケイ
- ⑤ ケイロウの日

(エ) カジヨウ

- ① ハンジヨウする飲食店
- ② ジヨウチヨウな文章
- ③ テンジヨウ員の仕事に就く
- ④ ヨジヨウ人員を異動させる
- ⑤ 汚水をジヨウカする

(オ) ササイ

- ① 石灰岩をフンサイする
- ② 難民をキユウサイする
- ③ マラソン大会をシユサイする
- ④ 死刑囚のサイシンを開始する
- ⑤ 事件のシヨウサイを調べる

問2 傍線部A「コミュ障用語の内輪性」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

- ① 自分はコミュニケーションが苦手だと考える人の場合、コミュ障という用語は自分を指し示す用語としてだけでなく、自嘲的にも用いられている。しかし、他の自称コミュ障の人からそれを指摘されることは拒否し、共感的に使用されることはない。
- ② コミュ障という用語は、自分がそれに当てはまると考える人々の場合、自称・自嘲的に用いられている。ただしそれは、インターネットを使用している人の間だけで使用され、一般社会ではその用語の意味は全く理解されていない。
- ③ 自分はコミュニケーションが苦手だと考える人々の中で、コミュ障という用語は自嘲的ではあるが受け入れられ使用されている。また、コミュ障に関連する用語や、自分たち以外の人間を指す用語もコミュ障の仲間内で生み出し、仲間意識を強めている。
- ④ コミュ障という用語は、コミュニケーションが苦手な人々が自分たちの問題を一般社会に知ってもらうために作り出したネットスラングである。それゆえ、コミュ障を自称する人々の場合、この用語は自嘲的ではあるが、肯定的に使用されている。
- ⑤ コミュ障という用語は、インターネットとの親和性が高い。つまり、実際に会わなくてもコミュニケーションを取ることができるという容易さのため、新たなコミュ障に関連する用語が生み出されやすく、共感もされやすい。

問3 傍線部B「その事態がもたらす困難についてのメタレベルの認知がますます彼を緊張状態に追いやっていた」とあるが、それはどういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 今行っているコミュニケーションが上手くいつているかどうかを評価するだけではなく、コミュニケーションが終了してから相手とどのような関係性を築いていけばよいかを考えてしまうことにより、ますます緊張してしまうこと。
- ② コミュニケーションの最中に、コミュニケーションが気楽に取れる相手のことを思い出して、今上手に会話できていない相手について申し訳ないという気持ちが強くなり、ますます緊張してしまうこと。
- ③ 今行っているコミュニケーションで相手が沈黙したり、嫌そうな表情をした際に、違う話題を提供しなければ、相手の趣味にあつた話をしなければ、とあれこれ考えてしまうことにより、ますます緊張してしまうこと。
- ④ 今行っているコミュニケーションが上手くいつているかどうかの評価を相手と話しながら行うのは困難であるが、それをしなければならないという考えにとらわれてしまい、ますます緊張してしまうこと。
- ⑤ 今行っているコミュニケーションが上手くいつているかどうかを評価するだけではなく、それが上手に行えなかった場合に生じる相手との気まずさや、相手を傷つけてしまうのではないかという考えが頭に浮かぶことによつて、ますます緊張してしまうこと。

問4 傍線部C「他者にかれる喜びを見出す『成長物語』でもある」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 仲間内では自然に行えるコミュニケーションを、仲間以外のそれにも技術的に応用し、次第に多様な相手と趣味以外の話題でも無理なく話せるようになること。
- ② コミュニケーションが苦手な自分のことをコミュ障ではない相手が積極的に理解してくれて、一緒にコミュニケーションの技術を学んで上達していくこと。
- ③ コミュ障であることを自覚し、そのような自分でも受け入れてくれる仲間集団があると考えられるようになり、コミュ障について悩まなくなること。
- ④ コミュニケーションの技術を本やインターネットで学ぶことにより、以前よりコミュニケーションを苦手だと感じなくなること。
- ⑤ コミュニケーションに何度もつまずきながらも、その失敗から多くのことを学んで、次第にコミュニケーション技術が上達していくこと。

問5 次に示すのは、本文を読んだ後に、五人の生徒が「コミュ障」について話し合っている場面である。本文の趣旨と異なる発言を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 生徒A —— 「コミュ障」って言葉をインターネットなどでよく目にするけど、「コミュ障」(イコール)誰とも会話できない」という意味では、現在用いられていないみたいだね。著者は、自嘲的に「コミュ障」という用語を使う人たちの中で共感が生まれている、と考えているね。
- ② 生徒B —— 私自身もコミュニケーションを取ることは苦手だと感じているけど、確かに自分の好きな小説のことを同じ趣味を持つ相手と話すときには、何も苦痛は感じないわ。著者がいう、仲間内での会話は活発であり、相手とのかかわりを意識している、という主張に私も賛同します。
- ③ 生徒C —— 著者はそのような事態を2つの仮説で解釈しようとしているね。「限定的コミュ障仮説」は、自称「コミュ障」の人々は自分が得意ではない分野においてのみコミュニケーションが苦手なのであり、そこには改善の可能性がある、という考えだね。
- ④ 生徒D —— その仮説にあつたエピソードとして吉田アナウンサーの例を著者は紹介しています。会話の技術が下手なだけでなく、自分の下手なコミュニケーションを客観的に認識してしまうことで、さらにコミュニケーションが悪い方向へ進んでしまうと著者は考えているようです。
- ⑤ 生徒E —— そのような悪循環を断ち切るために、森田療法に取り入れられている自然に身を任せ自然に振る舞う態度を習得すべきであると、著者は考えているようだね。それが趣味以外の話題で一般の人と上手にコミュニケーションを取ることができるようになる近道だと私も思う。

問6 この文章の各段落の表現と構成に関する説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 第〔3〕段落における「(「傷のなめ合い」といわれる側面も)」という括弧内の文章は、コミュ障と呼ばれる、あるいは自分をそう呼ぶ人たちがコミュニケーション場面における弱者であることを強調している。
- ② 第〔6〕段落における「異文化コミュニケーションおよび差別仮説」について、本文章内では具体的な例示はされていない。
- ③ 第〔9〕段落における「(イエス、ノーで答える質問。そこで語りが停止するので会話が続かない)」という括弧内の文章は、「クローズド質問」の説明となっている。
- ④ 第〔13〕段落における「聞」という言葉が鍵括弧をつけた表現になっているのは、第〔11〕段落で説明された聞とは違う意味で用いられていることを強調するためである。
- ⑤ 第〔13〕段落における「(苦痛なまま?)」という括弧内の表現により、対比的に、コミュ障が会話上手になっていく成長物語が肯定的な印象を持つようになっている。

2

次の文章は、茂木健一郎の随筆『挑戦する脳』の一節である。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。

人間の脳は、「オープン・エンド」。生きている限り、一生学び続ける。何歳になっても、学ぶのをやめてしまうことはない。それが、現代の脳科学が示している一つの真実である。

しかし、「学ぶ」という言い方は、実際に起こっていることを考えれば本当はいささか穏やか過ぎるかもしれない。そこには、どことなく、「自分」というものは変わらないままに、ただ少しずつ改善していただけといったニュアンスがある。

本当に起こっていることは、時にもっとドラマティック。人間の脳は、「挑戦する脳」。学びのプロセスの中で、今までに経験したことがないような新しい世界に侵入し、その中で自分の存在を確立させようと奮闘する。その結果、自分自身が変わってしまう。

赤ちゃんが、ハイハイを始める。ハイハイから、伝い歩きをする。やがて、一足でよちよちと歩き始める。そのようなステップの一つひとつを通して、次第に自分の世界が広がっていく。今までになかったようなさまざまなことを経験し始める。それが、脳の本来のあり方である。

A 「学ぶ脳」から「挑戦する脳」へ。張り付けられるメタファー(注1)の変化が、新たな脳の見方を開く。関係ないように見えるものどうしが結び付けられる。そうして、私たちの人間の見方が、また一つ深くなる。

私たち人間の脳は、いかに「挑戦する」存在であるか。挑戦を通して、私たちはいかに変わっていくか。そのことを、これから考えていきたいのである。

一つ、浮かび上がってくる光景がある。

あれは、高校二年生のときだった。私の通う学校に、クラス交流としてある高校の生徒たちがやってきた。

私たちは、教室の机に思い思いに座った。約一時間、お互いの生活のことを話した。ごく普通の、とりとめのない会話。話し終えたときに、心の奥どうしが触れあえたような、そんな確かで温かい感触が残ったのである。

私たちの学校を訪問したのは、視覚特別支援学校の生徒たち。生まれつき、あるいは人生の途中から視覚を失った同世代の仲間たちと、語らいの時間を持った。あの日のことが、今に至るまで忘れがたい。

最初は、身構える気持ちがなかった、と言えは嘘になる。目が見えずに、生活の上でいろいろと不自由があるだろう。人には言えないような苦勞も経験しているに違いない。そんな人たちがらさまざまなことを聞き、一方で自分のことも語るという「役割」が果たせるのかどうか。私は、心許なく感じていた。

当時私は十六歳。人生のことも、世間のことも、大してわかつてはいなかったように思う。もちろん脳科学にもまだ関わってはいないし、脳をめぐる知識も余りない。そんな私が、視覚特別支援学校の生徒たちを迎えるに当たって身構えてしまったことも、ある意味では仕方がないことだった。

今ならば、人間の脳の驚くべき潜在能力を知っている。視覚を失っているという状況の下で、脳が代償や学習といった機能を発揮して、どれほどのことができるかを知っている。

しかし、そのときの私には、そんなことを考える力も余裕もなかった。人間の脳というものが、容器の形に合わせて姿を変える水のように、いかに多くの様相を呈するものか、私は知らなかった。B 私は、まだ「挑戦する脳」に出会っていなかったのだ。ただ、人として、そのようなときにはどのように振るまえば良いか、という（ア）漠然とした倫理のようなものがあっただけだった。私は、実に心細い心持ちだったのである。

その日、私たちは一人ひとりパートナーを割り当てられた。私の前に座ったのは、細長い顔の男の子だった。対面してしばらく経ったころから、さまざまな「気付き」が生まれた。たとえば、「私からは彼が見えるのに、彼には私が見えないんだ」ということ。相手の表情をいくら見つめても、恥じらいやためらいが生まれてしまうことがない。そのことに気付いて、実はドキドキもしたのである。

日常生活においては、自分がある部分を注視しているということが、相手に対する心理的なメッセージともなる。「見る」「見られる」という関係性が、注視点のやりとりを通してダイナミックに変貌していく。そのような「晴眼者」どうしのコミュニケーションに慣らされている身からは、こちらがどこを見ているのか、全く気にしないかのようなその子の態度は、いかにも大らかでゆつたりしたものを感じられた。

次第に、私の脳もまた、彼の様子に（イ）感化されてやわらかな状態へと変わっていった。最初の戸惑いを超えれば、あとは同時代を生きる高校生どうし。学校生活や、文学、音楽、将来のことなどさまざまなトピックについて話が弾んだ。その子は、ラジオ番組に詳しくて、「この番組が面白い」「こんなことが話題になっている」と教えてくれた。「聞く」ということ全般に歓びを抱いていることが伝わってきた。

最初にあった構えが、いつの間にか嘘のように消えていた。急速なこだわりの消滅は、今振り返れば、C 彼が私の視点の行き先を全く気にかけていなかったことによるとしか思えない。

人間の脳は、一つの情報を与えられることでかえってそこに「居付いて」しまうことがある。ある情報が入ってこなくなることは、一つの「喪失」であるようであり、D その実は大きな「自由」の獲得へとつながることがある。

視線をやりとりすることは、相手の心を読み取る上で大切な働きである。それと同時に、場合によってはコミュニケーションを縛る桎梏（注2）にもなる。あの日、対話を通して半ば無意識のうちに受け取ったそのようなインスピレーションが、後々私が人間の脳について考える上で深い意味を持つことになったのである。

今振り返っても素晴らしいと思うのは、その子が、自分が視覚において「不自由」であるということにこだわってはいなかったこと。そんなことは気にせず、自分の人生を楽しむということに、全身全霊をかけているように見えたこと。

とりわけ、「耳を澄ます」という態度の純度が心を動かした。私たちも、目に見えないものに耳を傾けるということはある。しかし、私たちは余りにも視覚に依存し、それに左右されているがために、目に見えないものの気配を懸命に探るといった態度が、人生の中で時々しか訪れない。

晴眼者たちもまた、見えないものを探ろうとする。しかし、視覚に頼ってしまいがちなために、見えないものを探るといふ態度が徹底しない。一方、私の前に座った男子をはじめとして、視覚特別支援学校の生徒たちは、「見えないものを探ろうとする」といふ態度において、(ウ)卓越しているように感じられた。

E見えないからこそ、思い切り挑戦できることがある。見えてしまうがために、かえって挑戦できないことがある。

「どんな状況においても、人間の脳は挑戦しようとする」。しかし、その挑戦の障害となっていることに、案外気付かないままである。

言葉で表現すれば、そのような確信が私の胸の中に植え付けられた。そして、その心的表象の「種」は歳月とともに次第に大きく成長していくことになったのである。

注

(注1) メタファー——ある事物を、本来の意味とは別の意味で用いる比喩的な表現のこと。

(注2) 桎梏——束縛すること。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の表現の本文中の意味内容として最も適切なものを、次の各群の①

～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ .

- | | | | |
|-----------|---------------------------------|---|---|
| (ア) 漠然とした | <input type="text" value="11"/> | } | <ul style="list-style-type: none"> ① 普段とは違った様子 ② はつきりしていない様子 ③ うっかり見逃がしてしまうこと ④ 過去に体験していること ⑤ 当たり前だと考えられていること |
| (イ) 感化 | <input type="text" value="12"/> | } | <ul style="list-style-type: none"> ① 驚きを覚えること ② 競争心が生まれること ③ 圧倒させられること ④ 忘れられないほど感動を受けること ⑤ 方向性を変えるような大きな影響を受けること |
| (ウ) 卓越 | <input type="text" value="13"/> | } | <ul style="list-style-type: none"> ① 他の人よりも完璧であること ② 他の人よりも慣れていること ③ 他の人よりも群を抜いて優れていること ④ 他の人よりも準備が整っていること ⑤ 他の人よりもよく考えていること |

問2 傍線部A「『学ぶ脳』から『挑戦する脳』へ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 人間の脳は一生学び続け、生まれたばかりの頃は勢いよく学び続けるが、高齢になると脳は次第に学ばなくなっていくということ。
- ② 人間の脳は一生学び続けるが、その過程でゆつくりと穏やかに変化し、そのプロセスで自分自身が変わっていくということ。
- ③ 人間の脳は一生学び続けるが、その変化はまったく想像ができないくらいとても激しくそれまで経験したことがない変化を感じるため、日常生活の中で戸惑いや不安もともなうということ。
- ④ 人間の脳は一生完成することはなく変わり続けるが、その変わり方は少しずつ穏やかに変化するというより、実際には今までに経験したことのないような世界に挑んでいき、その結果知らない間に自分が変わっているというような感覚であること。
- ⑤ 人間の脳は一生学び続けるが、生まれたばかりの頃は少しずつ学んでいくので変化がわかりづらいが、高齢になるとそれまで積み重ねたさまざまな人生経験から積極的に変化していくことが実感できるということ。

問3 傍線部B「私は、まだ『挑戦する脳』に出会っていなかったのだ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 筆者が十六歳だった頃、視覚を失った同世代の仲間と会う機会があったが、当時はまだ年齢が低く「挑戦する脳」にまで発達していなかったため、どのように話せばよいのかわからず心細い思いをしたということ。
- ② 筆者が十六歳だった頃、視覚を失った同世代の仲間と会った時のことを思い出し当時を振り返って、なぜもっと積極的に話をしなかったのか、今になって後悔しているということ。
- ③ 筆者が十六歳だった頃、視覚を失った同世代の仲間と会った際、目が見えないことで生活に不自由があるのではないかと考えると、目が見える自分が何を話せばよいのかわからず不安を覚えたということ。
- ④ 筆者が十六歳だった頃、視覚を失った同世代の仲間と会った際、その仲間のことを理解したいという気持ちが強かったが、どのように接したらよいのかわからず戸惑ったということ。
- ⑤ 筆者が十六歳だった頃、視覚を失った同世代の仲間と会ったが、どのように接すればいいのかわからず不安を覚えたことについて、当時はまだ脳がもつ驚くべき潜在能力を知らずにただ戸惑っていたということ。

問4 傍線部C「彼が私の視点の行き先を全く気に付けていなかったことによるとしか思えない」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

16。

- ① 普段、視線のやりとりから相手の心を読み取ろうとするコミュニケーションに慣れすぎているため、目の前の生徒が目が見えないことで筆者がどんなことを考えているのかということに気にしない様子が、筆者の構えやこだわりをなくしたということ。
- ② 筆者の構えやこだわりがなくなったのは、目の前の生徒が目が見えないことで互いの表情から気持ちを読み取ろうとするのでなく互いの話を聞き合おうとしたため、筆者の苦手な相手の表情を読むという行為をする必要がなくなったということ。
- ③ 筆者は、目の前の生徒が好きなことや関心のあることについてとても楽しそうに話しているのを見て、筆者自身の興味があることとはまったく違ったため、今後生徒から聞いたことも楽しんでみようと思ったということ。
- ④ 目の前の生徒が、筆者がどのようなことを考え、どのような反応をしているのかを気にせず、自分の話したいことだけを一方的に伝えるようなコミュニケーションをとっていたということ。
- ⑤ 筆者は、それまで何を話題にして話せばよいのかわからず戸惑っていたことが嘘のように心が打ち解け、楽しい時間を過ごすことができたのは、目の前の生徒が筆者のことを気遣ってくれたからだということ。

問5 傍線部D「その美は大きな「自由」の獲得へとつながることがある」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 視覚を失ったことで目からの情報は入ってこなくなるが、そのことでかえって視線から相手の心を読み取ろうとせずにコミュニケーションがとれるため、「見る」「見られる」という一つの感覚にとらわれずやりとりができるということ。
- ② 人間は目に見える情報に頼りすぎているため、普段から目に見えないものだけに耳を傾けるという姿勢が大切であり、これを続けると「見えないものを探ろうとする」態度が身につくようになるということ。
- ③ 視覚を失ったことで目からの情報は入ってこなくなるが、そのことでかえって視線から相手の心を読み取ろうとせずにコミュニケーションがとれるため、人とかがわることが苦手であっても心配することはないということ。
- ④ 人間は、一つの情報を与えられることで見方や考え方がその情報にとらわれてしまう傾向があるため、全く情報が入ってこなくなることは世界を広く理解できると考えると学びの機会でもあるということ。
- ⑤ 人間は目に見える情報に頼りすぎており目に見えない情報には関心を持たない傾向があることから、他者を理解しようとする時あえて聞くことに重点をおいてコミュニケーションをとった方がいいということ。

問6 傍線部E「見えないからこそ、思い切り挑戦できることがある。見えてしまうがために、かえって挑戦できないことがある」とあるが、その説明で最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 視覚特別支援学校の生徒たちは、耳を澄まし見えないものを懸命に探ろうとするが、晴眼者たちは見えている世界だけが最も正しいのだと考えがちになり、それ以上感じたり知ろうとしたりしないこと。
- ② 視覚特別支援学校の生徒たちは、見えないからこそ耳を澄まし見えないものを懸命に探ろうとするが、晴眼者たちは視覚に頼りすぎているために他の感覚を使って情報を得ようとしてもまったくうまくいかないということ。
- ③ 視覚特別支援学校の生徒たちは、耳を澄まし見えないものを懸命に探ろうとするが、晴眼者たちは視覚に頼りすぎているため、見えないものを探ろうとしても見える情報に制約を受けてしまうこと。
- ④ 視覚特別支援学校の生徒たちは、見えないからこそ他の感覚を使って懸命に情報を得ようとするが、晴眼者たちは目に見えるものからしか情報を得られないため、周囲のことを理解する際理解の仕方が浅いことは致し方ないこと。
- ⑤ 視覚特別支援学校の生徒たちは、耳を澄まし見えないものを懸命に探ろうとするが、晴眼者たちは視覚情報に頼ってしまうため、目に見えないものを理解しようとする自体に無理があるということ。

※このページは空白

2. 英語

※英語の問題は、全7ページです。

英 語

1

次の問い（問1～5）の会話を完成させるために、（ ）内に入るのに最も適切なものを下の①～④のうちから一つずつ選べ。

- 問1 A: I'm going out to watch the basketball game.
B: Ok, but I heard it's supposed to rain today.
A: Really? I can't see a single cloud in the sky right now.
B: True, but I think you should bring an umbrella ().

1

- ① carefully
- ② just in case
- ③ at last
- ④ keep in touch

- 問2 A: Is Mr. Ellis in his office? I need to () him.
B: He is, but he's on the phone with a client right now.
A: Ok, well it's urgent, so could you tell him that I need to speak to him as soon as he's free?
B: Sure.

2

- ① have a word with
- ② talk down to
- ③ have a breath with
- ④ get in touch to

- 問3 A: David, I need to go to the grocery store for a moment and I need a babysitter.
B: Ok, I'll () the kids while you're out.
A: Thanks.

3

- ① look for
- ② look out
- ③ look around
- ④ look after

問4 A: Daniel, did you see the email I sent you about the company picnic next week?
B: I did, but I don't know if I can go yet. I might have other plans.
A: Okay, well, we need to know () you are going so that we can prepare enough
food for everyone. Could you try to decide soon?
B: Okay, I'll get back to you later this evening.

4

- ① how
- ② which route
- ③ whether or not
- ④ what time

問5 A: We've been working on this project for six hours straight!
B: Yea, I'm starting to get tired. Maybe we should () and start fresh tomorrow.
A: Sounds good to me.

5

- ① get out of hand
- ② live and learn
- ③ break the ice
- ④ call it a day

2

次の問い (問1 ~ 10) の 6 ~ 15 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の
①~④のうちから一つずつ選べ。

問1 He is old 6 to drive a car in Japan.

- ① full
- ② enough
- ③ much
- ④ plenty

問2 School will most 7 be canceled tomorrow due to the snow.

- ① often
- ② frequently
- ③ rarely
- ④ likely

問3 My classmate 8 an award for his achievements in school.

- ① gives
- ② is giving
- ③ was given
- ④ gave

問 4 Customers disabilities may receive special assistance by dialing 123-456-7890.

- ① with ② have ③ are ④ on

問 5 Our company headquarters is downtown, but the job site is located on a man-made island called Odaiba.

- ① self ② myself ③ itself ④ himself

問 6 All children should have a chance to succeed in life, of where they were born.

- ① regardless ② however ③ instead ④ according

問 7 families came to yesterday's event to participate in the fun and games.

- ① Much ② Several ③ A lot ④ A little

問 8 I can't find my wallet! I have dropped it somewhere on the subway.

- ① can ② will ③ would ④ must

問 9 Continuous use of coal and gasoline will have impact on the environment.

- ① an educated ② an effective ③ an opposite ④ a negative

問 10 I want to thank him for all his hard work buying him something nice.

- ① for ② to ③ by ④ with

3

次の英文（問 1 ～ 5）の下線部①～④のうち、誤りが一箇所ある。誤りをさがし、番号で答えよ。

問 1 We were all ① delighted ② for hear the news ③ of Susan's wedding ④ engagement.

問 2 ① Caution must ② used while driving, ③ or else an accident ④ could happen.

問3 The ① key to a good ② golf swing is ③ to bend your knees while ④ keep your left arm straight. 18

問4 People ① tend fear things ② which they do not ③ understand, ④ such as deep sea creatures. 19

問5 Harassment ① used to be a big problem for women ② where serve ③ in the army, but ④ times are changing. 20

4

次の問い（問1～5）について、日本語の意味に合うようにそれぞれ下の①～⑤の語句を並べ替えて空所を補い、最も適当な文を完成させよ。ただし、文頭に來るべき語も小文字で示してある。解答は 21～30 に入るものの番号のみを答えよ。

問1 すみません、この漢字の読み方を教えてくださいませんか？

Excuse me, could you () (21) () (22) () these kanji?

① to ② read ③ how ④ tell ⑤ me

問2 私たちは一週おきにクラブミーティングを実施します。

We () (23) () (24) () .

① week ② every ③ hold ④ other ⑤ club meetings

問3 もう少し学習を頑張れば試験に合格できたのに。

If I () (25) () (26) () , I could have passed the test.

① studied ② harder ③ little ④ had ⑤ a

問4 僕の先生を本当に尊敬します。

I really () (27) () (28) () .

① up ② my ③ look ④ teacher ⑤ to

問5 雨のため、ピクニックを取りやめなければならなかった。

We had to call off the picnic () (29) () (30) () .

① account ② on ③ the ④ of ⑤ rain

5

次の英文を読み、問い（問1～3）に答えよ。なお、*のついた単語には注がつけてある。

In today's modern society, it is safe to assume that almost everyone knows where the electricity we use on a daily basis comes from. There are oil and coal* power plants, natural gas power plants*, solar, wind and hydro-power, and even nuclear power in some countries. However, not many people know that there is yet another source of power that might be possible to ^(a)utilize in the future—one that is environmentally friendly and in abundance all over the Earth: wave power.

Wave power is exactly what it sounds like; it captures the movement of waves in the ocean and ^(b)converts that mechanical energy into electrical energy. Since the waves of the ocean are always moving, and the oceans of the world cover over 70 percent of the Earth, wave energy has the potential to power all of humanity's electric needs. There is just one problem; scientists can't find a good way to spin a turbine* using a wave.

A turbine is the most efficient method we know of for generating electricity from a physical force. It requires that a substance move through it and push on a set of propellers* to make the turbine spin. The problem with waves however, is that they do not actually travel any distance, even though they appear to move across the ocean's surface. All the water molecules* that ⁽¹⁾make up a wave are simply moving up and down in the same position, and this motion cannot be used to drive a turbine as it is.

Many ideas have been tried and tested in an attempt to find a way to make waves spin a turbine. There are caverns* which waves flow into from the bottom, pressurizing* the air inside to spin a turbine. There are floating pipes with many joints which use the motion of waves to pressurize the air within the pipes. There are large floating bags that waves overflow* into, and the flowing water drives a turbine. However none of these devices are able to spin a turbine fast enough to produce usable electricity.

There is also the issue of cost. Building such structures in the middle of the ocean is already very expensive, but there's more. Salt water, sand, barnacles*, debris* and storms can all damage such equipment over time, and thus such wave power plants would require ^(c)constant repair, making them even more expensive to maintain.

Wave energy has a lot of potential to be a great source of electricity, but currently we still don't know the best way to do it. What scientists need to focus on now is the development of more cost-effective and efficient power generators*, as well as the development of building materials that can ^(d)resist the harsh environment of the ocean.

NOTE: coal: 石炭 power plant: 発電所 turbine: タービン (流体が持つ運動エネルギーを回転運動に変え、動力として利用できる機械) propeller: プロペラ molecule: 分子 cavern: 海食洞 (海岸の崖に形成された洞窟) pressurize: 加圧する overflow: あふれる barnacle: ふじつば debris: がれき generator: 発電機

問1 下線部の (a), (b), (c), (d) の意味に最も近いものをそれぞれ①～④から一つずつ選び、番号で答えよ。

- | | | | |
|--------------|---------------|---------------|----|
| (a) utilize | ① increase | ② settle down | 31 |
| | ③ make use of | ④ investigate | |
| (b) convert | ① change | ② transport | 32 |
| | ③ recognize | ④ grow | |
| (c) constant | ① rapid | ② impossible | 33 |
| | ③ expensive | ④ frequent | |
| (d) resist | ① escape | ② control | 34 |
| | ③ bear | ④ combine | |

問2 文中 (1) make up に一番近い日本語を下の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① 飾り立てる
- ② 配合している
- ③ 構成している
- ④ 加工している

問3 次の問い (a～d) を読み、最も適切な答えを①～④のうちから一つずつ選べ。

- a. According to the author, what is true about people living in modern societies? 36
- ① They cover 70% of the Earth.
 - ② They are usually not aware of wave power.
 - ③ They do not all have electricity.
 - ④ They think that electrical power is abundant.

b. According to the article, why don't modern societies use wave power?

37

- ① They have enough power and electricity from coal already.
- ② Wave power isn't a clean energy source.
- ③ Scientists haven't developed an efficient power plant for that yet.
- ④ Not every country is near a large ocean.

c. According to the author, what should scientists be doing now?

38

- ① They should be looking for an alternative to turbines.
- ② They should continue to research and develop new generators.
- ③ They should try to stop the spread of barnacles.
- ④ They should try to make repairs on current power plants cheaper.

d. What is this article mainly about?

39

- ① The expensive cost of repairing power plants.
- ② Countries that are using wave power.
- ③ People's knowledge of different kinds of power.
- ④ The current status of wave power.